

令和4年度 学校関係者評価書

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
<p>学 力 向 上</p>	<p>鈴鹿市立箕田小学校</p> <p>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</p> <p>1基礎基本の確かな定着 ・みだっこタイムの活用(月曜 朝)、チャレンジ学習の定着 ・児童アンケート「学校の勉強が分かる」89.4%→89.4%以上へ</p> <p>2授業改革・授業研究 ・主体的な学びを生む指導(CTを利用した授業づくり) ・年2回の研究授業、それ以外に全職員が年1回以上の授業公開</p> <p>(成果と課題) ・チャレンジ学習(自主学習)に3年生以上は、年間30回以上取り組ませた。自主学習の内容を提示し、くり返し指導を行ったことで、めあての自己設定やふり返りの定着につながった。 ・家庭学習の時間が短く、メディアや情報端末、ゲーム機に触れる時間が長いことがわかった。教育を語る会で「さっくばらんに話そう 子どものインターネットSNS利用座談会」をテーマとし、事前にアンケートした結果などをともに保護者と教員で日頃の悩みや疑問を話し合う場を設けた。情報モラルの学習会も同時におこなった。 ・児童アンケート 「学校の勉強が分かる」89.4%→91.2%にあがった。また、「授業に進んで取り組んでいる」94.7%→94.8%となった。学習に関しては、わかったと感じている児童がほとんどであり、進んで授業にも参加できていることがわかった。 ・年間2回の研究授業を行った。 ・ICTを授業に積極的に取り入れた。ICT支援員を低学年を中心に積極的に活用し、中学年・高学年へと基礎的な技能を持たせて学年を上げていけるような素地を作ることにも力を入れた。またICTを活用することは児童の意欲向上にもつなげることができた。 ・自主的な授業公開で教師間の研修を行い、意見交換の場として活用できた。 ・新聞などに触れる機会が少ない。そのため、新聞の切り抜きからの読み取りをするなど読む書くに関わるワークシートに取り組んだ。</p>	<p>「学校の勉強がわかる」は89.4%に上がっているが、社会問題になっている取り残される児童がないようにすることも大切だと思います。 ・授業内容の理解や定着のために練習問題を解く時間(何年前の箕田っこタイム)が必要ではないか。→できなかったものを宿題にするのではなく、少しでも理解できるように、低学年が帰宅後に低学年の先生に入ってもらったり、単発でボランティアに入ってもらったりする良いと思う。 ・家庭学習で保護者が見ている家庭は少ないと思う。 ・チャレンジ学習が定着したことは素晴らしいと思います。子どもたちの意欲や「学校の勉強がわかる」の%が上がったことに繋がったと思う。 ・ICT授業を積極的に取り入れていただいたこともこれからの時代に不可欠なので子どもたちにとって良いと思う。 ・アンケートの「勉強がわかる。」が91.2%に上がったということは素晴らしい結果だと思いますが、1割弱の勉強がわからない児童に対してはどういうところで躓いているのか、またどのような関わり、御指導がされているのかなど具体的な手立ても何らかの形で知りたいと思いました。 ・アナログ的な学習(例えば国語の本読み等)も大事にして欲しい。</p>	<p>・家庭学習などの家庭での時間の使い方に関して、さらに学校から現状や知識などを発信していく必要がある。学校通信などを通して伝えていく。 ・児童1人あたりの平均読書冊数が減少傾向にある。児童が読書に親しみ、読解力を身につけるため、「きょうは本をかりようデー」として、1週間に1度、図書室で本を借りて読むことを啓発する取り組みを行った。</p>
<p>特 別 支 援 教 育</p>	<p>1. 校内支援体制の充実 ・校内支援会議等を必要に応じて開催する 課題の把握及び共通理解、支援方法等の検討(月1回程度) ・関係機関との連携を密にし、支援体制に生かす 里山学院との連絡会議(年回) ・原担会議や介助員・支援員と定期的な情報交換会(年3回以上) ・スクールカウンセラーの効果的な活用 ・全クラスの時間割の把握・必要に応じた支援員の配置</p> <p>2. 合理的配慮がなされた授業作りの推進 ・ユニバーサルデザインの取り組み 見通しを持たせるための工夫や視覚支援の工夫についての研修 ・個別の指導計画の作成及び評価(年間)</p> <p>(成果と課題) ・職員会議や打ち合わせを通じて児童の様子をこまめに共有することができた。 ・里山学院との連絡会議は4回 ・原担会議の代わりに支援員からの情報を担任に共有することを行ってきた。今後も日頃の情報交換と職員間の共有を大事にしていきたい。 ・スクールカウンセラーの相談は担任が活用してもらうことで保護者に上手く繋がられている。今後もスクールカウンセラーの先生に来ていただく頻度を増やしたい。 ・支援員の配置については職員・支援員が少なくスムーズに回しきることができないことがある。今後も時間割を早めに出すようにしていく。 ・ユニバーサルデザインについてはプロジェクターを活用し視覚支援を行うように取り組んでいる。 ・個別の支援計画については必要に応じて作成していく。</p>	<p>・難しい問題だと思います。継続して(取り組みを)お願いします。 ・スクールカウンセラーの先生に来ていただくことが増えるのは子どもや保護者にとって安心でき、ありがたいことだと思う。 ・スクールカウンセラーの効果があり見えてこない。 ・保健からの掲示が今年とても見やすく、手のこんだ掲示が目につきやすく、子どもたちに興味をもてていくように感じる。 ・ボランティアは地域の方ができるだけ(自分の)子どものクラスに入らないように配慮してほしい。個人情報も漏洩されないように一筆書くようにしてほしい。 ・様々な機関との会議、連携のもとで、先生方の細やかな御指導、努力が伺われます。 ・コロナ禍にあつてなかなか難しい状況ではありますが、鈴鹿里山学院の見学等について、新しく見えた先生の他に、担任になられた先生にも来ていただくことも大事かと考えています。生活について理解していただくことが必要だと思っています。</p>	<p>・集団生活がスムーズに行えるように、入学当初の集団生活や係活動に関する取り組みの時間や支援者を増やすなどの工夫を行う。 ・会議を予定に組み込むのが一番だが、職員会議や打ち合わせなどを活用していくことで補っていききたい。 ・全学級の時間割を一覧にし、共有したことで、実態に応じた支援体制を組みやすかったため、今後も継続していきたい。 ・今後も積極的に地域・保護者と連携し、ボランティア活用も充実させていきたい。</p>
<p>生 徒 指 導</p>	<p>1. 全校児童の共通目標への取組 ・児童会・生活委員会中心とした「あいさつ運動」を実施。児童アンケート「自分から進んであいさつをしている」「よくあいさつする」「だいたいあいさつをする」を89.8%→92%へ ・「時間を守る」意識を育てる。チャイムとともに授業や掃除等が始まる習慣を身につけさせる。 ・インターネット使用のマナーや注意点について、学年の実態に応じて全学年で指導する機会を持つ。</p> <p>2. 安全指導・防災指導の実施 ・各クラスの帰りの会や地区別・一斉下校時に点検を行い、ホイッスルの毎日携行80.7%→85%へ ・交通安全教室を行い、自転車の正しい乗り方を学習させる。 ヘルメット着用率98.8%→100%を目指す。 ・避難訓練や防災学習の実施(年間3回)</p> <p>3. 校内の情報共有 ・毎月の職員会議時に、報告のあった事案について、起きた内容や事後の指導等について情報を共有し、今後の指導に活かしていく</p> <p>(成果と課題) ・「自分から進んであいさつをしている」は91.7%→89.8%に下がった。あいさつ運動は児童会が毎週火曜日、あいさつクラブがその都度行い、アンケート結果は低下しているもの実感としてはあいさつは良くなっているように感じる。 ・チャイムや放送で動く習慣はおおむね身につけている。 ・情報モラルに関する授業を全学年で行い、インターネットなどの便利さや情報を正しく扱う難しさや怖さについて学習した。 ・ホイッスルの毎日携行は84.8%→80.7%に下がった。 ・ヘルメット着用率は93.8%→98.8%に上がり、かぶっていないのは1.2%だった。 ・避難訓練はおおむね真剣に取り組めていたが、予告無しで実施した訓練では臨機応変に避難することが難しく、あらゆる場面での適切な行動に関して課題が残った。 ・児童の様子について共有するフォルダをもとに、打ち合わせや職員会議等で情報共有を行った。他学年の様子をいつでも知ることができ、学校全体で児童を見守っていく意識を高めることができた。</p>	<p>・「あいさつ運動」の効果があり気持ちよく感じています。 ・ヘルメットの着用は、高学年でかぶらなくなる児童(6年)が増えた。 ・通学路以外の自転車走行がみられる。特に歩道のない県道は危ないので、通らないように指導してもらいたい。 ・ICT授業を積極的に取り入れて行くと同時にインターネットやSNSなどの仕様に注意点を指導してもらうことはとても大変だと思う。日常的になってしまっ親も子どもも忘れてしまっていることを改めて再確認することができる。 ・道いっぱいに広がって帰ってくるのを何度か注意しているが、例年変わっていない。 ・現代の子供の姿だと思います。朝は元気がない感じの子が多いですが挨拶をすると大きな声で返ってきます。帰りの子どもたちは朝よりいきいきとしていて私達もそんな姿を見るのが嬉しいです。 ・たまたま阪神大震災のニュースを見て改めて思ったのですが、毎回の避難訓練の大切さが日頃の意識の持ち方にも繋がりが、いざというときに実際にさっと行動できると思いました。そのために学校と連携して、自治体、大人たちも考えていくべきだと思います。 ・箕田小の元気な挨拶は気持ちの良いものなので「あいさつ運動」を大事にしていきたい。 ・chromebookを使用しているためインターネットやSNSについては定期的な指導を望む。 ・津波に関する避難訓練はどの様になっていますか。</p>	<p>・学校生活のふりかえりでは、93.4%の児童が肯定的な回答をしている。一定の成果は認められるが、あいさつ運動からは、自分から、はっきりとあいさつする姿勢が弱いと感ずることもある。運動の仕方も工夫して、あいさつへの意識を高めていく。 ・チャイム着席への意識はあるものの、生活の切り替えが上手できない児童も目立つ。繰り返し指導していく必要がある。 ・インターネットやSNSの利用に関しては、全学年で実態に応じた指導の機会も持っているが、トラブルは見られ、繰り返し指導していく必要がある。 ・ホイッスルや防犯グッズの携行については75.4%に落ちている。地区下校時だけでなく、防犯に対する意識を高める指導の機会が必要である。 ・ヘルメットの着用率は94.7%であった。交通ルールとして100%になるべきで、繰り返し指導が必要である。 ・避難訓練は真剣に取り組んでいる。地震・火災・防犯のそれぞれの観点で定期的・計画的に訓練を続けていく。 ・事案に関する連絡、報告はできているが、より細かい児童の様子を伝え合い指導の共通理解を図る機会を作っていく。</p>
<p>活 力 あ る 職 場</p>	<p>1 総勤務時間の縮減に向けた取り組みの推進 ・定時退校日の設定(月2日)・19時以降消灯(月2日) ・時間外労働の削減(月4時以上0人)</p> <p>2 休暇取得の促進(+1日/年)</p> <p>3 仕事の効率化 ・ワークシートや会議資料等のデータ化・共有化 ・会議・業務内容・行事等の精選・分担</p> <p>(成果と課題) ・定時退校日について、月2回設定することはできたが、実施率については下降した。R3 12月 91.4%→R4 12月 82.4%) ・時間外労働について月4時以上0人を達成することができている。時間についても削減することができた(R3 12月 30.3時間→R4 12月 21.5時間) ・職員会議等について提案資料の電子化が進み、印刷等の業務が削減されている。</p>	<p>・コロナの影響でいるような問題がありますが、努力はわかります。 ・電子化をもっと進めていっても良いと思う。連絡事項のメール配信やChromebookの活用もうまく進めることができれば良いと思う。 ・まだまだ収まらないコロナ禍で、先生方は大変だと思います。山のような業務があると思いますが、まずは自分の体調を整え、元気な姿で子どもたちと関わっていただけたら、それが一番素晴らしい教育だと思います。 ・休暇取得について、現状はどうですか。</p>	<p>・校務の電子化が総勤務時間の縮減に効果的であることが明らかになった。電子化できる業務を更に見つけ出し業務の効率化を目指したい。 ・定時退校日の設定と学校行事が連動させず、定時退校日が繁忙日になってしまうことがあった。安心して定時退校できるよう、定時退校日を計画的に設定していく。</p>